

## 令和4年度 第2回 県南西部地域医療構想調整会議 議事概要

日時：令和4年10月20日（木）15:30～17:00

場所：岡山県備中県民局会議棟第1・2・3会議室

### 【挨拶 備中保健所長】

- ・ 本日は第2回県南西部地域医療構想調整会議にコロナ対応の中、御出席いただき感謝申し上げます。また、平素から岡山県そして備中保健所のさまざまな施策に御理解と多大なる御協力、御尽力を賜っており、この場を借りて厚く御礼申し上げます。
- ・ 新型コロナウイルス感染症について、本当に第7波は非常に大変なことだったが、少し収まりかけてきている。そうした中でみなさま方には、御自身、御家族の健康管理から始まって、職場での健康管理、感染防止対策、さらにはそれぞれの機関としての様々な取り組み、本当に御苦労されながら御尽力くださっていると思うし、我々の業務には多大なる御協力をいただいております、本当に感謝している。
- ・ 現在、患者数は減ってきてはいるが、臨床現場の先生方のお話をお伺いすると、コロナだけではなく通常の風邪の患者さんが増えており、あるいはインフルエンザの患者さんが散見されるという話も聞いている。さらにはコロナの患者さん自体が、第7波は収まってきていると言いながら、この1週間少々は前週を上回る日が増えているというようなことがある。本当にこれから冬に向けて、決して油断することなく、社会全体、経済活動の活性化というそういった流れが非常に強くなっていて、これから多くの方々が戸惑いながら、しかしながら頭を悩ませておられると思うが、こういった中我々も、方針がコロコロと変わって非常に恐縮だが、しっかりと情報発信をし、御協力をお願いしたいと思うので、どうぞよろしくお願ひしたい。
- ・ さて、本日の会議だが、この地域医療構想、今後の高齢化の進展、あるいは人口減少、少子化といったことも踏まえて、効率の良い医療を今後とも継続的に提供していくために、適切な病床の確保、あるいは機能分化、そういったことをしっかりつないでいこうという趣旨である。現状を見据えながら、そして将来の見込みをしっかりと見ながら、しっかりとこれからも地域を支えていただくための話し合いの会議というようなことである。
- ・ そういった中で今回は第2回目の会議だが、二つの議題である。一点は前回、昨年12月に倉敷記念病院様が病床機能を転換されるということで、そのときは書面開催で皆様方には合意して頂いたものですが、その内容についてその後組織内で検討された結果、その方針が変更されたということで、改めて皆様方に説明を聞いて頂いて、そして合意を頂きたいというのが一点である。
- ・ もう一点が、笠岡市立市民病院。こちらは経営強化プラン、これは先般こちらの会議でその案を御説明頂いたが、もう少し関係者への説明、内容の検討が必要ではないかというようなことで、その後笠岡市さんの方で内容を見直し、また必要な関係の方々への説明もされて、本日改めてこの会議で皆様方に内容を説明させて頂いて、そしてできる限り合意

を頂きたいというような趣旨である。笠岡市立市民病院さんにおかれては、今後病院の建て替えの問題も大変大きな課題としてある。そしてそれを具体的に進めるためには、できるだけ早く、年内には国の方に対して経営強化プランの決定というか、そういったものをもって事務を進める必要があるということなので、ここで必要な説明はしっかり聞いて頂いて、そして皆様方に合意を頂いて、あるいは御意見等あればそれもしっかり頂いて、完成したものに仕上げて、今後の事務作業を進めていただく必要がある。これは笠岡市さんにとっても、我々県行政にとっても非常に重要なものなので、どうぞよろしく願いしたい。

- ・ いろいろと説明したけれども、以上二点、限られた時間だが忌憚のない意見交換を頂いて、今後のよりよい体制づくりにつなげていきたいと思っている。どうぞよろしく願いしたい。

**【議長・副議長の紹介】**

議長：難波 一弘 委員（倉敷医師会 会長）

副議長：難波 義夫 委員（岡山県病院協会井笠支部 支部長）

**議事**

**【1 病院の病床機能転換について（倉敷記念病院）】**

〔倉敷記念病院から、資料に基づき説明あり〕

〔質疑・意見等〕

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ただ今お話し頂いた内容について、御質問や御意見があればお願いしたい。何か特にはないだろうか。</li> <li>・一般のお話として、何かあったら倉敷第一病院とか、グループの中で連携しておられるから、退院してもそのまま入院ができるわけだよね。</li> </ul>
倉敷記念病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、地域包括ケアシステムの中で、病院としての病床構成、その中でも地域包括ケア病床ということで、急性期、あるいはサブアキュートの入院も可能だし、連携、公的機能の病院からのポストアキュートの受けも今までどおりかなと思う。法人の中の倉敷第一病院並びに倉敷記念病院の二つの病院の機能を一層分化するというので、法人の中の連携も進めると同時に、法人として地域に貢献する姿勢を改めて感じており、しっかりしたいという思いから今回の審議をお願いした次第である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、ありがとうございます。他にどなたかないでしょうか。</li> <li>・アドバイザーの先生、何かアドバイスすることはないですか。</li> </ul>
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特にないが、今病院からいろいろと御説明のあったとおり、二つの病</li> </ul>

委員	<p>院があり、超強化型の老健施設があり、有料老人ホームがあり、在宅もやっておられるということで、非常に医療介護のネットワークとして発達しておられるように考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は一般病床を地域ケア病床に転換するというで、地域のニーズに沿った病床転換であると考えている。</li> </ul> <p>・はい、どうもありがとうございます。他に何かないでしょうか。特に皆さま御意見はないですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確かにアドバイザーの先生がおっしゃったように、既に機能分化をしっかりとされているので、私も特に病床転換を止めるものは何もないと感じている。ということで、非常に簡単ではあるが、この提案どおりで合意、承認ということによろしいか。</li> </ul> <p>(反対意見なし)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、倉敷記念病院さんの病床転換については、合意、承認いたします。</li> </ul>
----	---

## 【2 病院営強化プラン策定について（笠岡市立市民病院）】

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この件に関しては、前回の調整会議で様々な御意見を頂いたように思う。最終的には、地元の医療機関と連携協力を図る場を設けるようにというような御提案もあったと記憶しているが、まず、それらを受けて、どういう対応をとられたのかを御報告いただき、その後引き続き経営強化プランについても御説明をお願いしたいと思う。よろしく願います。</li> </ul>
笠岡市立市民病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日は当院の経営強化プランのご審議よろしく願います。</li> <li>・前回7月14日の会議では、経営強化プランの骨子をお示しさせて頂いた。その中で地域での話し合いができていないとの御指摘を頂いた。そこでまず笠岡医師会様と市民病院に関するワーキングチームを作り、医師会役員や医師会全員を対象に1回ずつの協議を行った。市内にあるベッドを有する医療機関、笠岡第一病院、笠岡中央病院、村上脳神経外科内科の皆様と合同、また個別に協議の場を持たせて頂いた。その中で必要なときに入院を受け入れて欲しい。訪問診療、訪問リハビリ、特に訪問看護など在宅医療を積極的にやって欲しい。皮膚科などの専門外来をやって欲しい。笠岡は超高齢化社会なので、病院でありながら医療・介護・福祉が一体となって、生活あるいは人生まで面倒を見るカタチが必要などの御意見を頂いた。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これを受けて、経営強化プランの中に、市民病院も市内の医療機関と調整をしながら、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション、それぞれの機能を充実すること。また、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現するために、公立病院としての役割を担うことなど盛り込んだ。</li> <li>・さらに、医師会、市内の医療機関だけでなく、笠岡市議会での協議、市民に対するパブリックコメントの実施。笠岡市で開催した有識者会議の委員の方々に意見を伺うなど、様々な方法により、協議及び意見を調整した上で経営強化プランの案を作成し、今回の会議に提出させていただいている。今回のプランの内容については、事務局から説明させていただきますのでよろしくお願いいたします。</li> </ul>
--	--

〔笠岡市立市民病院から、経営強化プランについて説明あり〕

〔質疑・意見等〕

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ただ今の説明により、何か御質問や御意見はおありでしょうか。</li> <li>・すぐにはないようなので、私から。外来患者数を増やしていくと言われていたが、この計画だとあまり増えてないように思うのだが。あまり無理をせずに進めて頂けたらと思うが、これは実数なんでしょうか。一日あたりの外来患者数が、令和3年が174人、令和4年が176人と一応数字は上がってはいるが、これは診療した数値か。それとも今までの窓口の数に従ったものなのか。</li> </ul>
笠岡市立市民病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほどの御質問ですが、外来については外来患者数を増やしていく方針に従って予測をしている。まず一つは外来が密にならないように、それから、在宅に向かっていろんな手を打っていくので、それによる増加も見込みながらこういった数字になっている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅の往診とか島嶼部の外来数は、これらの人数には入っていないというんだね。</li> </ul>
笠岡市立市民病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島嶼部は、当院の外来者数に入っていないが、在宅に関連してはこうした数字になっている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これは在宅で計画往診された人も、この174人の中に入っているということですね。</li> </ul>
笠岡市立市民病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、そういうことです。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島嶼部自体はかなり少ないと思うのだが、一日あたりの数は、4人とか5人とか、かなり少ないのでしょうか。</li> </ul>
笠岡市立市民病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当院が行っている島嶼部の診療所は、白石島が毎週火曜日、真鍋島は毎週木曜日、あと六島が月2回、真鍋島に行く日の午後から月2回行っている。</li> <li>・白石島の患者数については、一日あたり30人から40人来られている。真鍋島も十数人来ている。白石島の人口が大体250人か260人、真鍋島の人口が200人をちょっと切っているくらい。六島は、数人である。これは人口がもう40、50人なので、患者数としてはこの程度である。</li> <li>・あと、診療所は笠岡市が設置しているので、笠岡市の診療所の会計によって運営しているので。当院から医師も派遣している。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この人数来られるのなら、結構なことだと思う。なかなか小さな島で30人、40人は来ないでしょうから。すごく頑張っておられると思う。これは感心する。</li> <li>・あとは、個室化というか、個室はどのくらい作って、どの程度のものを用意されるとか、そういう細かいところの計画は何かあるのでしょうか。</li> </ul>
笠岡市立市民病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今は、個室がいくつかということはお答えできない。方針としては全個室化ということも検討の中に入れている。この近辺でいえば、三豊市民病院さんが今年開院されて、全個室化されているというのでちょっと見に行ったりとかして、検討している段階である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全個室化ということは、99床を全部、できればしたいということだね。</li> </ul>
笠岡市立市民病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それは費用がかさむことになると思うけれども、個室料とかいうものはあるのか。</li> </ul>
笠岡市立市民病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個室料については3割というのが決められていると思うが、仕様が同じであれば金額は取らないか、その中で仕様を替えて差額を取る部屋を3割以内で設けるかどうかはまだ検討はしていない。ただ個室と</li> </ul>

	<p>というのは（病床）稼働率を100%に持っていけるので、それも含めて今検討をしている。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・やはり、せつかく作る以上は、ある程度経営ができるように、患者さんにも喜ばれるようにというのがありがたい。</li><li>・新市民病院は全個室化されるということだが、確か環境整備費とかで個室料は自動的に保険で負担できるのではないか。そういったようなこともちょっと工夫されて検討していただけたらと思っている。</li><li>・他にどなたか御質問はあるだろうか。</li></ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・コロナの患者さんの入院に関しては大変お世話になった。助かった。なかなか入院できるような状況が作りにくいのだが、笠岡市民病院さんは、浅口市の特に年齢が高い方、独居の人、要介護の人を引き受けていただいて、非常に感謝している。</li><li>・経営の面では非常に厳しいと思うが、今後もそういう市民病院の立場を堅持していただくことは我々にとって良いことだと思う。</li><li>・私も飛島に十数年通わせてもらっているが、最初は200人強いた住人が今は80を切っているということで、高齢化率は80%を超えている。その人たちの安全を確保するのは、なかなか苦難をしているわけだが、それについても今は笠岡消防組合と民間の渡船の方が協力していただいて、非常にスピーディーに（笠岡）市民病院へ、笠岡第一病院の時もあるが、運んでいただいて助かっている。今後これが病院に請求するカタチになっていくと聞いているが、それはそれとしてしっかりやっていただければ良いと思う。異議なくやっていただきたいと思います。</li><li>・一つ地域ケアシステムの中の役割ということで、市民病院さんが在宅医療の充実を図られるということだが、これは地元の医師会、笠岡医師会さんとどのような話になっているのか、ちゃんと役割は分担しているのか、ということが気になる。地域包括ケアの中で市民病院の役割は、入院を受け入れたりという非常に大きな役割があると思うのだが、在宅医療そのものに市民病院が関わっていくと、相当マンパワーも必要だし、経費もかかるし、私らからの考えからすると、官民協力して、民ができるところは民がするということかと。訪問看護ステーションでいうと、笠岡中央病院も笠岡第一病院も持っておられると思うし、私がいるエリア、浅口市にもあるのだが、上手く医療機関と連携できているところとそうでないところがあって、そうすると相当隆盛を極めている訪問看護ステーションとそうでないところと分かれてきている。だから、そういう分野に最初から手を出すのではなく</li></ul>

<p>委員</p>	<p>て、上手く民間の活力を活用して、地区医師会としっかり相談していただき、役割分担をしていただくのが良いんじゃないかと思うが、笠岡医師会はどうだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・笠岡医師会は、先ほど（笠岡）市民病院さんからのお話があったとおり、前回の地域医療構想調整会議の後で、市民病院さんと説明や協議の場を何回か設けた。我々笠岡医師会の希望をお伝えした。またこういう計画の説明も詳細に受けた。何回か協議をしている。</li> <li>・その中で笠岡地区では、今どちらかという訪問看護ステーションがちょっと足りないというか、実際に訪問看護師さんが足りなくて、福山市民病院さんや倉敷中央病院さんから退院してこられて自宅に帰られた方への十分な訪問看護が入られないことがあって、医師の方もそうするとなかなか十分な在宅診療ができにくいという事情がちょっと笠岡地区にはある。それで以前から笠岡市民病院さんには、訪問看護ステーションを作って欲しいと、そういう希望があったので、今回もそういった話を実は出している。</li> <li>・先ほど浅口医師会長がおっしゃったが、確かに地域で訪問診療をやっている医療機関はある。そこの競合ということもあるが、現時点ではやはりちょっとまだ足りないという状況もある。それから市民病院さんにはお願いしたのだが、全く普通の地域の医療機関と同じことだけをしていただくのではなくて、我々地域の医療機関がやってもなかなか、例えば突然昼間、外来中に急変が起こった時になかなか行けないことがあったり、あるいは休日なんか急に在宅の患者さんの状態が変わった時に、すぐにはなかなか到達できないことがあったりした時に、そういう時に24時間、そういう対応をできればお願いしたいなど、そういう要望も市民病院さんにはして、それをまあ、聞いていただいている。</li> <li>・そうやって地域で通常の我々医師会所属の医療機関と市民病院さんとで良い連携をして、地域の住民の方々が在宅で暮らせるように、そういうふうにできたら良いなと思っている。そのへんの話し合いを一応させていただいている、ということ。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元医師会としっかり話し合いができておられるというのは何よりである。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・笠岡市には有人7島、7つ島がある。約1500人の高齢者の皆様が島に住まれておられる。全体では高齢化率は60%を超える。一部の島ではもう80%くらいが65歳以上ということになるのだが、本当に高齢</li> </ul>

化率が非常に高い、基礎疾患をお持ちの方も多い島嶼部なんです。

- ・皆さん船に乗って、定期船に乗って、地区を超えた病院に通うというのは大変ハードルが高い。なので、それぞれに診療所を開設させていただいている。それにはちゃんと民間の病院の皆さんにも参加させていただいて、笠岡市民病院では先ほど説明したように、白石島、真鍋島、六島を担当させていただいている。担当の先生方は、本当に島の皆様の絶大なる信頼を得ておられて、ワクチン接種からリモート診療と、本当にいろいろと挑戦をさせていただいている。この場を借りまして心から感謝申し上げたい。
- ・先ほどの話にも出たが、来年の4月1日に、救急艇を配備する予定にしている。救急車が船になったようなカタチだが、救急救命士、消防士が、消防組合の職員が乗船して島嶼部まで行って応急処置をし、病院と連携を取りながら、港に着いた時点で救急車がすぐに出発できるというような体制をこれからは整えることができるということになる。
- ・今までは消防団、そして海上タクシーをお願いして、港まで棧橋まで連れて行っていただいて、その時点で救命救急士が状態を確認してから病院を探すという、かなりロスする時間があったのだが、今後はスムーズな搬送ができるということになる。島嶼部の皆さんにしっかり安心して生活していただけるよう改良して参りたいと思っている。以上である。

委員

・他に特に御意見はないでしょうか。

委員

- ・笠岡市民病院さんには、昨年、特にコロナ患者さんをたくさん引き受けていただきありがたかった。本当に介護度の高い方を受け入れていただいて非常に感謝している。
- ・さて質問にはなるが、倉敷市の場合でいうと、例えば医師の働き方改革によって、急患センターの診療機関の一時間滞在施設というものを今年度からやっている。そういう観点から考えると、今後医師並びにコメディカルスタッフを揃えるということが非常に難しいのではないかなと考えている。そういう意味からいうと、ある程度市が持たれているからいろいろと問題があるろうかと思うが、何らかのカタチで特化していかないと非常に難しいのではないかと。例えば岡山大学に寄附講座を設けられている。非常に良いことだとは思いますが、広島県でも同じようにされていると。例えば、静岡県であれば川崎医科大学の方に寄附講座ではないかもしれないが、地域枠というカタチで静岡県から医師の確保のために、県民をそこに派遣しているというようなこと



	<p>もやっている。なので、何か積極的なものがない限りは、なかなか医学生並びに研修医等に来ていただくというのは厳しいのではないかと、そのように危惧している。漠然とした考え方ではあるが、行政の立場としては、医師の確保というのは特にそこが非常に難しいのではないかなとそう思っている。</p>
<p>笠岡市立市民 病院</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員が言われたとおり、医師の確保というのは、地元医師会の先生との話し合いの中でも、大丈夫かという話はあった。その会議でも医師確保についての問題が出てきて、この経営強化プランの中でも、医師確保については出来る限りの方策をとると、いろんな手法を書いている。総合内科の寄附講座については引き続き行うと書いてあるが、今一番は毎日総合内科の先生が、常勤は来られてないが、毎日何らかのカタチで来られて、当直もしていただいているという状況である。それ以外にやっぱり研修医がここ2年ほど当院へ来始めた。その受け入れ体制が総合内科の先生方の指導があるというのが非常に大きいのと、それともう一つ指導体制でいえば、福山市の病院から指導の先生が来ているということで、若い先生方を受け入れて育てるところに今力を注いでいるところである。</li> <li>・あと、笠岡市独自で、岡山県の地域枠と同じような制度を持っていて、修学資金の貸付制度がある。月20万円で、借りた月数と同じ月数を勤務すれば返済が免除となる制度だが、現在4名の学生がその制度を利用している。ここで一人卒業する。まあすぐに勤務は難しいので、研修とか含めて経験した後に当院に来ていただく。この制度は引き続き行っていくので、継続して医師の確保はできるという制度である。あと岡山大学とこの制度を利用した、岡山大学の学生に対して貸し付けて、総合的な診療を勉強してもらおうというようなことで岡山大学とこの修学資金制度とは連動して連携している。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その4人の先生は岡大におられるのか。</li> </ul>
<p>笠岡市立市民 病院</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いえ、岡大の先生は4人のうち1名である。というのは岡大との連携をしたのが今年の3月なので、それ以降に修学資金を貸し付けしている学生が1人。それまでに3人いたので、そのときには岡大に絞ったものではなくどこの大学でもOKだという制度だったので、岡大以外の方もいらっしゃるということだ。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと枠が増えればありがたいが。なかなか財政も難しいだろうからね。</li> </ul>

	<p>・ただ、実際働き方改革で、今倉敷圏域で話し合いをずっとしてきて、最終的には中小の病院にはもう人が来ないので、引き続きやっていけないんじゃないかというような方向になっていて、ゆるい連携をしようかと。強い連携というのは例えば、今日の夜は当直はどこかの病院が全部診るといったようなことはなかなか難しいので、お互いに連携し合うような、補填し合うようなことをやっていかないと。例えば、笠岡市民病院さんは今日は内科をする、第一病院さんは整形外科をするといった持ちつ持たれつの連携をしていかないと、どうにも働き方改革で中小はつぶれると思う。せつかくいいプランを立てたのだから、上手くやっていていただきたいと思う。本当に大変だと思う。</p> <p>・他にないかないでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>・どこの病院も、中小や大きな病院であってもプランをいろいろ持っていて、こういうのができればなあと思っている。</p> <p>・私が危惧するのは、やはり前出の委員も言われたが、人の問題は大きいと思う。ドクターあるいはナース、コメディカル、いろんな人が要る。こういったことがきちんとできるように人が本当に確保できればよいかなあ。そのためには人件費もいるだろうし、問題なく人が集まるかどうかはこれからの課題だと思う。その辺をきっちりして、こういったプランができるように、まあ本当にできたらいいなあと私自身は思っている。</p> <p>・あと、20ページの表で、医業収益と医業外収益とがある。医業収益は、入院・外来・その他の収益の合計だと思うが、医業外収益の四億八千万、九千万近くは、一般補助金とその他の医業外収益とを足したものがこれになると。私はびっくりしたのが、医業外収益があって補助金がまだ五億ぐらいある。それを全部事業に回すという簡単な考えなのかなと。よく見たらそうではないことが分かるけれども、一般補助金が五億も要るようじゃ困るので、そういったものがなしで、それに見合うような税金を笠岡市民に対して、使ってよいかどうかを聞いて、補助金がなくてもやっていけることをきちんと説明するというようなことはしていただきたい。まあ頑張って欲しい。私が心配しているのは「人」だけ。</p>
<p>アドバイザー</p>	<p>・このところ笠岡市民病院は、非常に経営改善を狙っておられると思う。病床稼働率とかもベッドコントローラーを置いて改善されたりといろいろと工夫をされている。若手の指導医が来られていることで、若い先生方が集まるようになってきていて、非常に活気も出てきていると聞いている。コロナ患者も延べ1,800人も受け入れられたという</p>

	<p>ことで、貴重な経験もされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ただ別の委員が言われたように、これからの経営については、必ずしも楽観できないと考えるので、引き続き緊張感を持って経営を進めていただきたいと思います。また、同時に市内の民間病院や地元医師会の診療所の先生方とも十分協議をしながら改革を進めていただきたいと思います。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きい病院をしておられる委員、何かあるだろうか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気になることは別の委員がおっしゃられたことでそうだなと思ったのだが、もう一つ避けられないのが、お隣である福山市との関係。本当に近い。そういう意味では一体となってされていることも多いのではないかなと。まあ、されてないことも多いかもしれない。是非とも県を越えての良いカタチのものを構築していただけたらと思う。恐らく全国でもそういった問題がいっぱい起こっていると思うが、よそにない良いモデル地区になれるのではないかなという気がしている。県内の連携にとどまらず、お隣の県外の医療圏との連携も、是非とも見えるカタチにすることがどうしても必要かと。笠岡市の市民の方がどのくらい福山市の医療を利用しているのか、その利用はいろんな訳があって利用している訳で、いろんな意味で福山市の医療環境が良いから利用されているところもあると思うので、その辺をちょっと加味したあのエリア、あの地域は昔、備後地区と言われていた。生活圏が昔からそうだったんだということをもう一度思い出しというか、県を挟むとどうもけんか腰になることが多いんじゃないかと気になることもあるが、もともとそうだった、備後圏だったと。またそういうカタチができれば日本全国に誇れるモデル地区になる。是非そうになっていただきたい。そういう意味でまず見えることがまず必要ということで、どのくらいの福山市の医療を活用されているのか、ある意味市民の方はその辺上手に活用されているのではないかと思うので、そのあたりを見えるようにしておけば、次にすべきこと、笠岡市が自らすべきことがまた見えてくるのではないかなとふと思った。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方、本当にありがたい。県をまたいでのことだが、我々も備後圏域の中で連携をさせていただいている。</li> <li>・救急事案に関しては倉敷方面に搬送するケースが多いが、一般の市民の通院等に関しては、本当に福山の病院に通っている人がすごく多い。特に（福山市は）隣接しているので、例えば整形であれば鋼管病院、頭の方であれば太田病院、一般総合内科であれば福山市民病院と、大体笠岡市民は通うのであればそういうカタチで、福山市は非常に近</li> </ul>

<p>笠岡市立市民 病院</p>	<p>いので、通うケースが多い。夜の夜間の受付の病院に関しては福山に子ども病院があるが、笠岡市の医師も一緒にローテーションの中に入って福山市と協力してやっているという話も聞いているので、かなりの連携ができています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福山市民病院の事業管理者は、軀にある紫苑会、藤井病院の前理事長がなっておられて、定期的に藤井病院の先生が研修医の指導に入ってくれている。そういう意味でも福山との連携は更に強まっているという状況にある。しっかりと連携を取りながらやっていきたいという風に思っている。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今、市長から自治体同士の話をしたが、病院でいうと、福山市民病院が中心となって、備後圏域の協議会をやっている。いろんな感染症の対策であるとか共同で研修会をやったりと、そういったことを具体的にやっている。コロナ禍の中でここ二年飛んでいるが、備後圏域、三原から北は府中、世羅、神石高原、岡山県側は井原と笠岡とでやっている。</li> </ul> <p>福山市民病院さんとは以前、医療物資の共同購入の具体的な連携を検討したこともある。あと福山市民病院を利用している笠岡市民は約4%となっている。福山との連携は、具体的なカタチで今も行っているところである。</p>
<p>笠岡市立市民 病院</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほど御質問いただいた20ページだが、もっと表現をよくすれば良かったのだが、この三億から四億についての一般会計の負担金については11ページの一番上、(5)の一般会計負担の考え方に基づいて、赤字だから単に入れているのではなくて、いわゆる国の繰出基準に基づいて入れていただく金額を提言させていただいている。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何か他に御意見や問題は特にないだろうか。大体御意見は伺えたように思う。より一層人材の確保に頑張ってください、やっていただければ、この笠岡市民病院の経営強化プランについては合意、了承を得たものとしてよろしいか。</li> </ul> <p>特に反対意見が無いようなので、合意、了承されたものとする。 これで本日の議題は全て終了したので、議事を終了する。</p>